

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	家庭総合①	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、保育・福祉、衣生活、住生活についての知識を身に付けている。 家族・家庭、保育・福祉、衣生活、住生活における生活の営みに必要な技能を身に付けている。 	生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現するなど、課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の成績 学習プリントの完成度 作品の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 作品(製作過程を含む) 学習プリントの完成度 授業中の回答 話し合いの中での発言 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での説明を聞く態度 学習プリントへの取り組み 実習への取り組み 話し合いの中での発言 出席状況 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	これからの 生き方と家族	①生涯の生活設計	定期考査①	13
	5月		②家族・家庭と社会のかかわり		
	6月	次世代を育む	③ともに生きる	定期考査②	15
	7月		①子どもの発達		
	8月	衣生活をつくる	②子どもの生活	定期考査③	15
	9月		③子育て支援と福祉		
10月	④被服の製作				
後期	11月				18
	12月	住生活をつくる	①人の一生と住まい	定期考査⑤	17
	1月		②住生活の計画と選択		
	2月				
	3月				

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

・家庭科は実験・実習など、実践や体験を通して学ぶことを重視している教科です。授業に参加することを大切にしてください。また、プリントもその都度、授業内で取り組んでおくと提出が期限までにスムーズにできます。

・定期考査④は実施せず、被服の作品製作による評価とします。

6 教科書・副教材

高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる (第一学習社)
生活学-Navi- (実教出版)

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 家庭総合② (2単位)

1、教科書・副教材

家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍) 生活学-Navi- (実教出版)

2、科目の目標

健康の保持・増進の要となる栄養と食品の関わり、さらに調理実習を通して基本的な食生活の営みを学習し、消費者としての意識を育てる。生活の課題に取り組む意欲と家庭生活の充実をはかる態度を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	高齢社会を生きる	①高齢期を理解する ②高齢者の心身の特徴 ③高齢者を支える	定期考査①	13
	5月				
	6月	食生活をつくる	①食生活について考える ②食事と栄養・食品 ・炭水化物 ・脂質 ・たんぱく質 ・無機質 ・ビタミン ・その他の食品 ③食生活の安全と衛生 ④生涯の健康を見通した食事計画 ⑤調理の基礎	定期考査②	15
	7月				
	8月				
9月			定期考査③	15	
後期	10月	※調理実習を3回程度行なう	定期考査④	18	
	11月				
	12月	経済生活を営む	①職業生活を設計する ②計画的に使う ③国民経済・国際経済と家庭の経済生活 ④消費行動と意思決定 ⑤現代の消費社会	定期考査⑤	17
	1月				
	2月				
3月					

4、評価の方法

授業への取り組みと出席状況、実習への参加状況、プリント、定期考査での学習成績を総合的に判断して評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

プリントがあるので、後で困らないようにその都度取り組んでおく。授業の内容の理解を深めるために調理実習を行なう。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 子どもの発達と保育 (2単位)

1、教科書・副教材

子どもの発達と保育 (実教出版) 生活学-Navi- (実教出版)

2、科目の目標

子どもが健全に発育・発達するために必要な内的・外的要因を学習し、保育者の役割を理解し実践する態度を身につける。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	子どもの発達の特性	発達と乳幼児期の意義 発達と保育環境 児童観と発達観	定期考査①	13
	5月				
	6月	子どもの発達の過程	子どもの発育 子どもの精神発達 人間関係の発達	定期考査②	15
	7月				
8月	子どもの生活	生活と養護 子どもの遊び 生活習慣の形成 健康管理と事故防止	/	15	
9月					
後期	10月	子どもの保育	保育の意義と重要性 家庭保育と集団保育 保育の方法	定期考査④	18
	11月				
	12月				
	1月				
	2月				
3月	定期考査⑤	17			

4、評価の方法

授業への取り組みと出席状況、授業プリント・手作り玩具やカード等の作品、定期考査での学習成績を総合的に判断して評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

プリントや作品の提出があるので、後で困らないように、その都度取り組んでおく。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 服飾文化 (2単位)

1、教科書・副教材

服飾文化 (教育図書)

2、科目の目標

私たちの生活における服飾の役割について理解を深めるとともに、製作を通して縫製の基本技術を学び、服飾文化を創造できる実践的な態度を身につける。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	服飾の変遷と暮らしの背景	服飾の移り変わりの概要		13
	5月		手縫いによる基礎作品の製作		
	6月	個性とファッション	個性の表現と服飾		15
	7月		ミシンと手縫いによる基礎作品の製作		
	8月		着ることと装うこと		
9月		応用作品の製作		15	
後期	10月	服飾文化の伝承と創造	服飾にかかわる伝統工芸 応用作品の製作		18
	11月				
	12月				17
	1月				
	2月				
3月					

4、評価の方法

授業への取り組みと出席状況、作品の提出と完成度を総合的に判断して評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

授業の大半が実習となるので、根気よく製作に取り組み作品を完成させ提出すること。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 フードデザイン (2単位)

1、教科書・副教材

フードデザイン新訂版(実教出版) 生活学-Navi-(実教出版)

2、科目の目標

食の安全に留意し、健康的な食生活を送るための栄養、食品、調理などに関する知識と技術を身につけ、実践していく態度を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	食生活と健康	食事の意義と役割	定期考査①	13
	5月	栄養素のはたらき	5大栄養素および水の機能と代謝		
	6月	調理の基本	調理上の性質および調理による成分の変化 食品衛生	定期考査②	15
	7月	食品の特徴	食品の選択・適切な取り扱い	定期考査③	15
	8月	調理実習	調理実習5回		
9月					
後期	10月	食品の特徴	栄養素のはたらき 食品の特徴 調理に必要な知識と技術	定期考査④	18
	11月			定期考査⑤	17
	12月	料理様式とテーブルコーディネート	日本料理、西洋料理、中国料理の特徴 テーブルコーディネート		
	1月	調理実習	調理実習5回		
	2月				
3月					

4、評価の方法

授業への取り組みと出席状況、実習への参加状況、プリント、定期考査での学習成績を総合的に判断して評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

講義と実習を通して知識の定着をはかります。出席することが大切です。毎時間の取り組みを大事にし、プリントや課題は必ず提出するように取り組んでください。